

健康経営における重要指標

当社では、適正な労働時間での勤務・休暇取得による仕事とプライベートの調和や柔軟な働き方の実現に取り組んでいます。最近では、感染症対策やリモートワークなど時間と場所にとらわれない働き方の広まりに応じて、対人接点や運動機会のあり方が変化し、心身の健康に配慮しなければならない場面が認識されるようになりました。加えて、人生100年時代における就労機会の長期化により、従来以上に健康保持増進の重要性が高まっています。

こうした状況をふまえ、当社では、社員が健康への関心を高め、生活習慣の変化への対応およびヘルスリテラシー向上を図ることが、社員の活力向上ひいては健康経営の実現につながると考え、以下の指標に注目し取り組んでいます。

項目	2022年度	2025年度目標
健康診断受診率（被扶養者除）	100.0%	100.0%
特定保健指導実施率	85.0%	90.0%
社内外の健康イベント実施回数	9回	15回
喫煙率	14.7%	12.0%
適切な運動習慣を有する者の割合	28.8%	30.0%
適切な飲酒習慣を有する者の割合	95.8%	96.5%
適切な睡眠習慣を有する者の割合	75.6%	80.0%

なかでも、「適切な運動習慣を有する者の割合」に注目し、社員の健康課題として以下のように取り組みました。

運動習慣リスクの改善に向けた取り組み

健康課題の認識
健康スコアリングレポート（厚労省・経産省）数値は概ね良好ですが、「適切な運動習慣を有する者の割合」が全健保組合加入者平均を下回る状況にあり、この改善を図ることが社員の健康向上につながると考え、当社社員の健康課題と設定しました。
直近の状況および目指すところ
レポートのスコアは全健保組合平均値を100とする相対値で、複数年にわたり100未満と平均を下回る状況にあったことから、まずはこの数値を平均以上とすることを目指しています。 【目標：健康スコアリングレポートの「適切な運動習慣を有する者の割合」スコアを100以上とする】
健康課題を解決するための取り組み
年2回のウォーキングキャンペーンを継続実施しています。参加促進のため以下の工夫をしています。 ・3名1チームの個人対抗/チーム対抗とし、順位により景品を準備しインセンティブ付与。 ・エントリー時はチーム名と目標歩数を社内イントラに登録し、ゲーム性を高めた。 ・自社開発の歩数アプリを提供し、キャンペーン中に日常的に歩数を確認できるようにした。 ・自社開発の歩数アプリを提供し、キャンペーン中に日常的に歩数を確認できるようにした。 ・経営層も取締役会チームとして参加。歩数の途中経過を社内イントラで公開した。
取り組みにより得られた成果
・年度ごとの平均参加率は年々向上し2022年度通年平均で35.5%。直近2023年6月は参加者数1008名、参加率46.9%まで向上。幅広い社員の運動意識向上につながった。 ・キャンペーン中は社員の話題にのぼるなど、運動だけでなく社員間コミュニケーションにも寄与した。 ・健康スコアリングレポートの運動習慣リスクスコアは直近3年で87⇒89⇒95に向上。目指す100超えまで迫る水準となった。（スコアは全体平均を100とする相対値）